

## 令和4年度 青少年教育指導者等の養成及び資質向上に関する事業

チームマネジメント力向上のための研修会～ワクワクするチームをつくるために！～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔共催〕 長崎県バスケットボール協会

〔期日〕 令和4年11月26日（土）10:00～17:00 日帰り

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 スポーツ指導に関わっている方、子供の指導に関わっている方20名（男性17名、女性3名）

〔講師〕 門田 卓史（株式会社 edu-activators 代表取締役）

〔担当職員〕 西田 尚由、寺中 拓也

### 1) 事業の趣旨

スポーツの指導においては、子供の将来を見据えたコーチングスキルを身につけたスポーツ指導者の育成が必要である。そこで、スポーツ指導者を対象に、体験教育・アドベンチャー教育の基本となる手法や理論を体験的に学び、子供の可能性を引き出す指導の在り方や関わり方を学ぶ事業を実施する。

### 2) 目標

- ① 指導者の考え方や関わり方の重要性に気づき、自分自身も“また学びたい”意欲が高まる。
- ② 技術面以外にチームづくりに大切なポイントやスキルを学ぶ。

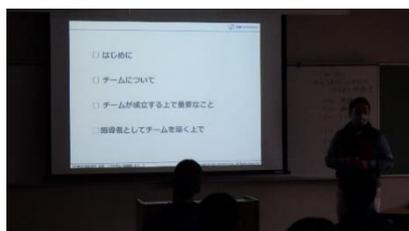
### 3) 研修プログラム

11月26日（土）	
9:30	受付
10:00	開講式 ・ スタッフ自己紹介 ・ 講師紹介 ・ 参加者自己紹介
10:15	講義・演習1【写真①②】 ・ チームの概念 ・ 目的と目標
13:00	講義・演習2【写真③④】 ・ イニシアティブゲーム（ZOOM、RE-ZOOM等）
16:00	振り返り・閉講式

### 4) 事業展開

#### 講義・演習1

①



②



参加者は、講師の門田氏による講義や演習を通して、チームの概念やよりよいチームづくりのための理論的な内容を学び、指導者の考え方がチームに及ぼす影響を実感できた。参加者一人一人が自身のこれまでの指導について確認、振り返りを行い、今後の指導方法について考えるきっかけとなった。

## 講義・演習2

③



④



イニシアティブゲームでは、参加者自身がチームづくりについて疑似体験することで、子供の可能性を引き出す指導の在り方や関わり方を学んだ。参加者は、自身が指導しているチームの現状を把握し、また、参加者同士で意見交換をすることで、今後の指導について考える機会となった。

## 5) 評価

### (1) アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

### (2) 参加者の声

- ・活動を通して、伝えることの重要性を改めて知りました。また、選手同士がコミュニケーションをとりやすいチームを作らなければいけないと感じました。
- ・今回の研修の内容を、自チームの現状に照らし合わせながら考えていくと、自分自身がもっとこのような研修を通して学び、それを反映しながら指導していくことが重要だと思いました。
- ・いつの時代も「今時の子は？」とよく言われて来ましたが、その視点ではなく、対象となる選手の可能性を「引き出す」引き出しを数多く身につけたい。
- ・今までに受けた技術的な研修だけでなく、選手との接し方など、時代の変化とともに選手とのかわり方や指導方法について学ばなければと思いました。
- ・技術指導はYouTubeやDVD等ありますがチームづくりや指導者の形成についてはないのでとても参考になりました。
- ・これまでの自分のチームづくりを言語化、整理することができました。
- ・マネジメントという、人を動かすことの理念や基礎を座学や活動で体験することができ、たいへん良かったです。
- ・チームの規模が小さかったり、実績としては乏しかったりしますが、そうした要素は関係なく、指導に携わる人間の一人として、預かる生徒に何かしら響く言葉を届けられる人間になりたい。

## 6) 成果と課題

### (1) 成果

- ・講師と担当職員で連携し、参加者の様子を把握することで、適宜、適切な活動を実施することができた。その結果、参加者の満足度が高く、たいへん有意義な研修会になった。
- ・参加者の多くが“バスケットボールの指導に携わっている”という共通点はあったが、年齢や指導歴は様々な集団だった。それでもお互いにコミュニケーションを取り合い、最後まで、とても良い雰囲気での研修を進めることができた。
- ・多くの参加者が、今後も学び続けたいという意欲を高めることができた。

### (2) 課題

- ・今回はバスケットボール協会に協力してもらったこともあり、バスケットボールの指導者に多く参加してもらうことができたが、広報不足で他競技の指導者からの参加者がいなかった。
- ・日帰りでの開催だったため、時間に追われながら忙しいスケジュールだった。もっとじっくりと学んでもらえるような日程で実施できるような工夫が必要である。

## 7) SDGsとの関連



### 目標 4 質の高い教育をみんなに

仲間と協力する活動を通して、安全・安心な学習環境づくりの指導方法を学ぶ。



### 目標 16 平和と公正をすべての人に

仲間と協力する活動を通して、参加型の意思決定を支援する指導方法を学ぶ。